

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第5回「地層処分対象放射性廃棄物の品質マネジメント」特別専門委員会
開催日時	平成21年9月28日(月) 13:30 ~ 16:30
開催場所	財団法人原子力環境整備促進・資金管理センター 会議室
参加人数	委員7名(朽山主査、田辺幹事、出光委員、大江委員、宮原委員、馬場委員、藤田委員) 他オブザーバー3名、説明者8名
議 事	<p>(1) 報告書案について</p> <p>前回(第4回特別専門委員会)に引き続き、報告書案「地層処分対象放射性廃棄物の品質マネジメント～地層処分において必要と考えられる高レベル放射性廃棄物(ガラス固化体)の特性～」について審議された。</p> <p>表題の副題が変更されたこと、また、前回の特別専門委員会等における委員からのコメント等を反映し修正した箇所について主に説明がなされた。</p> <p>第1章について、言葉の定義や注釈による説明、引用文献の記載内容について見直し修正することとなった。</p> <p>第2、3章について、表中に数字(高レベルガラス固化体の諸元)について、その有効数字や出典等の表現方法について、見直し修正することとなった。</p> <p>第4章について、処分において必要となる廃棄物の特性に関して、検討範囲や検討期間について明確に示すことになった。特に、閉じ込め性について、キャニスタ以外の人エバリアとの差違や、落下事故の取扱いについて審議された。</p> <p>第5章について、品質管理に反映されるべき技術情報(R&amp;D)に関して、その必要性や報告書への記載内容について審議された。</p> <p>第6、7章、その他について、用語集等の表現方法や文言の整合性について委員よりコメントがあり、適切に修正することとなった。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
備 考	

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第4回「地層処分対象放射性廃棄物の品質マネジメント」特別専門委員会
開催日時	平成21年9月2日(水) 10:00 ~ 12:15
開催場所	財団法人原子力環境整備促進・資金管理センター 会議室
参加人数	委員8名(朽山主査、田辺幹事、出光委員、大江委員、桐島委員、宮原委員、馬場委員、藤田委員) 他オブザーバー3名、説明者9名
議 事	<p>(1) 報告書案について</p> <p>報告書案「地層処分対象放射性廃棄物の品質マネジメント～高レベル放射性廃棄物(ガラス固化体)の地層処分において必要となる廃棄物特性～」の内容について審議された。</p> <p>表紙～第1章について、副題や本文中の文言について議論され適正化することとなった。また、本報告書の背景としての位置づけ等について審議された。</p> <p>第2章～第3章について、ガラス固化体の諸元と製造プロセスについて審議され、仕様や製造目標についての数値の意味するところや表記方法について議論され、適正化が検討された。また、逸脱や非定常の固化体の取扱いについて審議された。</p> <p>第4章～第7章、用語集について、地層処分において必要となるガラス固化体の特性や特性の把握方法について審議された。特に、工程管理や記録情報の把握方法について議論され、技術情報やR&amp;Dの必要性を盛り込むことが検討された。また、用語の適正化について審議された。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
備 考	

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第3回「地層処分対象放射性廃棄物の品質マネジメント」特別専門委員会
開催日時	平成21年7月22日(水) 13:30 ~ 17:00
開催場所	財団法人原子力環境整備促進・資金管理センター 会議室
参加人数	委員8名(朽山主査、田辺幹事、出光委員、大江委員、桐島委員、宮原委員、馬場委員、藤田委員) 他オブザーバー2名、説明者6名
議 事	<p>(1) 各種高レベルガラス固化体の製造プロセス・管理内容・記録取得状況について</p> <p>返還廃棄体(GSD-V)、日本原燃のガラス固化体、日本原子力機構のガラス固化体それぞれについて、以下の項目について審議された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガラス固化体作製のプロセスフローについて</li> <li>・ プロセス及び各プロセスで実施している管理について</li> <li>・ 取得する記録について</li> <li>・ 重要特性を記載した記録又は特性の評価方法について</li> </ul> <p>(2) 高レベルガラス固化体に関する放射能情報の決定・推定方法について放射線核種濃度情報の充足性と必要な情報について、以下の内容が議論された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価に必要な放射性核種</li> <li>・ 放射性核種の充足性</li> <li>・ 放射性核種の評価方法</li> <li>・ 放射性核種濃度の評価に活用できる記録</li> <li>・ 揮発性核種の取扱い</li> </ul> <p>このなかで、特に揮発性核種の取扱いに重点が置かれ検討がなされた。</p> <p>(3) 地層処分の設計・安全評価・管理項目と必要な高レベルガラス固化体の特性について</p> <p>録取すべきデータ導出のための「必要なガラス固化体特性」抽出方法について、以下の内容が審議された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特性の抽出方法</li> <li>・ 対象とするガラス固化体</li> <li>・ 非定常ガラス固化体の取扱い</li> <li>・ 用語の使い方</li> </ul> <p>また、必要な特性と管理評価項目一覧の改定版が示され、返還廃棄物や第一種埋設規則廃棄体技術基準などとの比較検討がなされた。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
備 考	

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第2回「地層処分対象放射性廃棄物の品質マネジメント」特別専門委員会
開催日時	平成21年6月19日(金) 10:00 ~ 12:00
開催場所	財団法人原子力環境整備促進・資金管理センター 会議室
参加人数	委員10名(杵山主査、田辺幹事、中條委員、山名委員、出光委員、大江委員、桐島委員、宮原委員、馬場委員、藤田委員) 他オブザーバー4名、説明者6名
議 事	<p>(1) 高レベルガラス固化体に求められる要件・特性の整理について 下記内容について審議された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高レベル放射性廃棄物ガラス固化体の設計・評価に関する要件と、それらに関連する固化体の特性について</li> <li>・ 高レベル放射性廃棄物ガラス固化体の把握すべき特性の検討方法について</li> <li>・ 廃棄体特性の選定の考え方、ガラス固化体の要件について</li> <li>・ 特性のグループ化(製造条件により変動する特性、変動が小さい特性、一定値として扱える特性、健全性に関する特性、安全性に直接関わらないが管理に必要な特性)</li> </ul> <p>上記の審議にあたり、以下の参考情報が紹介された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 我が国におけるガラス固化体の技術的基準について、学会標準(返還廃棄物)や諸外国における廃棄体特性の比較</li> <li>・ 高レベル放射性廃棄物ガラス固化体について、処分施設の設計に必要な特性</li> <li>・ 高レベル放射性廃棄物ガラス固化体について、処分の安全評価に必要な廃棄体特性</li> </ul> <p>(2) 高レベルガラス固化体処分の評価システムについて 評価システムの必要性と進め方、評価システムにおいて考慮すべき評価項目と特性、評価システムの事例について審議された。</p> <p>(3) 規制当局における検討の動向について 現在規制当局における検討が進められている安全規制の動向について、時間スケールを踏まえた評価が重要であること、そのなかで1000年程度についてBATの考えに基づく安全設計により、超長期の安全評価についての合理的な判断に資するという考えについての紹介がなされた。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
備 考	

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第1回「地層処分対象放射性廃棄物の品質マネジメント」特別専門委員会
開催日時	平成21年5月22日(金) 10:00 ~ 12:10
開催場所	財団法人原子力環境整備促進・資金管理センター 会議室
参加人数	委員9名(朽山主査、田辺幹事、中條委員、佐藤委員、出光委員、桐島委員、宮原委員、馬場委員、藤田委員) 他オブザーバー4名、説明者7名
議 事	<p>(1)委員会設置目的について</p> <p>本特別専門委員会の設置目的は、適切に録取されることが望ましい廃棄体製造時等の記録及びその記録の望ましい取得方法について、処分の安全性を確認する上での重要項目を現在の知見で見通しつつ、今後の更なる知見の蓄積も考慮して検討を行うことである旨、確認が行われた。</p> <p>(2)委員会構成について</p> <p>委員として、放射性廃棄物の地層処分、ガラス固化体の製作・評価、品質管理の分野における専門家11名(当初人数)、および、規制当局からのオブザーバー、処分・再処理・ガラス固化に関する専門機関(説明者)から構成されることが確認された。</p> <p>(3)検討の進め方及び議論の方向性について</p> <p>検討対象の範囲およびスケジュールについて確認が行われた。検討期間は2年を予定し、ガラス固化体を当面の検討対象とする。本年度は品質管理に必要な項目の抽出について注力し、9月を目標に検討・整理を進め、中間的な報告としてまとめることが確認された。</p> <p>(4)高レベルガラス固化体の特性について</p> <p>発熱量などの特性や管理方法の概要について質疑があった。詳細については、第2回委員会以降に審議することとなった。</p> <p>(5)諸外国における高レベルガラス固化体の基準について</p> <p>フランス、スイス、ベルギー、IAEAにおける基準の概略を紹介し、我が国への適応についての審議が行われた。</p> <p>(6)品質マネジメントの考え方について</p> <p>品質マネジメント検討に対する考え方が紹介され、審議された。管理レベルの上限値などの取扱いについての検討が行われた。</p>
備 考	